

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2023年10月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

2023/9/29
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは9月29日（金）9:00現在
※休日の実績は前営業日

		9月28日現在 (矢印は8月末比)	10月の予想
USD	ドル・円 (円)	↗ 149.29	↗ 135.00 ~ 155.00
	FRBの追加利上げの有無を巡って一喜一憂		
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	↘ 1.056	↘ 0.95 ~ 1.15
	ユーロ・円 (円)	⇒ 157.62	↘ 145.00 ~ 165.00
	9月ECBで利上げ打ち止めの公算が高く、ユーロの上値は重い		
GBP	ポンド・ドル (ドル)	↗ 1.220	↘ 1.10 ~ 1.30
	ポンド・円 (円)	↘ 182.13	↘ 170.00 ~ 190.00
	利上げ継続も、景気減速懸念から上値は重い		
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	↗ 95.87	↗ 94.50 ~ 98.00
	NZドル・円 (円)	↗ 89.05	↗ 88.00 ~ 91.00
	オセアニアの良好なファンダメンタルズと日銀政策の綱引きに		
株式 相場	日経平均 (円)	↘ 31,873	⇒ 31,000 ~ 33,500
	金融政策の方向性の違いから底堅い推移が見込まれる		
	NYダウ (ドル)	↘ 33,666	↘ 32,000 ~ 35,500
長期 金利	長期金利高止まりに加え、政府閉鎖やスト、学生ローン返済再開等課題山積		
	日本 (%)	↗ 0.755	↗ 0.60 ~ 0.90
	月末の日銀会合にむけて警戒感が高まる		
	米国 (%)	4.575	↘ 3.80 ~ 4.80
	10/31-11/1のFOMCでの利上げ有無を見極め		

◆ 今月の注目ポイント

日欧金融政策と米国景気動向		
テーマ	注目度	今月の注目ポイント
金融政策	◎	【ECB】前回の理事会の声明文では利上げ終了の可能性を示唆した一方、ラガルド総裁が政策金利がピークに達していないと今後の追加利上げの可能性に含みを持たせた。直近の欧州PMIとCPIの下振れを受けて、今月の理事会では政策金利を据え置きにし、様子見モードに入るか注目。利上げ終了を明言するかどうかは不透明感が強い。
		【日銀金融政策決定会合】今回の会合では展望レポートが発表される。直近のCPIの高止まりや日銀が重視している基調的なインフレの上昇を受け、インフレ見通しが上昇修正されるかどうかは市場の関心を集める。円安や円金利の上昇圧力が高まっている中、YCCに関する修正があるかも注目。
景気	○	【米国景気動向】足元の米金利上昇やドル買いの背景に米国景気の堅調さが続くという見方があるだろう。良好な景況感と雇用市場が続くとすれば、米金利上昇とドル買い基調が継続しよう。

◆ アジア通貨見通し

人民元・円	↗ 20.20 ~ 20.60	ルピー・円	⇒ 1.76 ~ 1.81
バーツ・円	↗ 4.03 ~ 4.13	ウォン・円	↗ 10.80 ~ 11.30
ルピア・円	↗ 0.95 ~ 0.98		

◆ 今月の重要日程

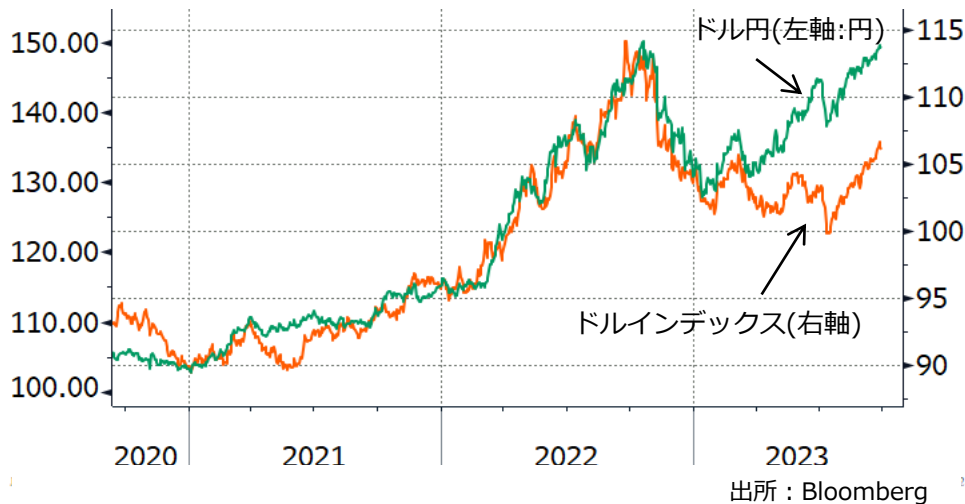
2日 (月) 米	9月ISM製造業	24日 (火) 欧	10月PMI
4日 (水) 米	9月ISM非製造業	26日 (木) 欧	ECB理事会
6日 (金) 米	9月雇用統計	26日 (木) 米	23/3QGDP
12日 (木) 米	9月CPI	31日 (火) 日	日銀金融政策決定会合
18日 (水) 米	23/3QGDP	31日 (火) 中	10月PMI
20日 (金) 日	9月CPI	31日 (火) 欧	10月CPI

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2023年10月号)

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



米ドル円



ドル円は上昇

135.00 – 155.00円

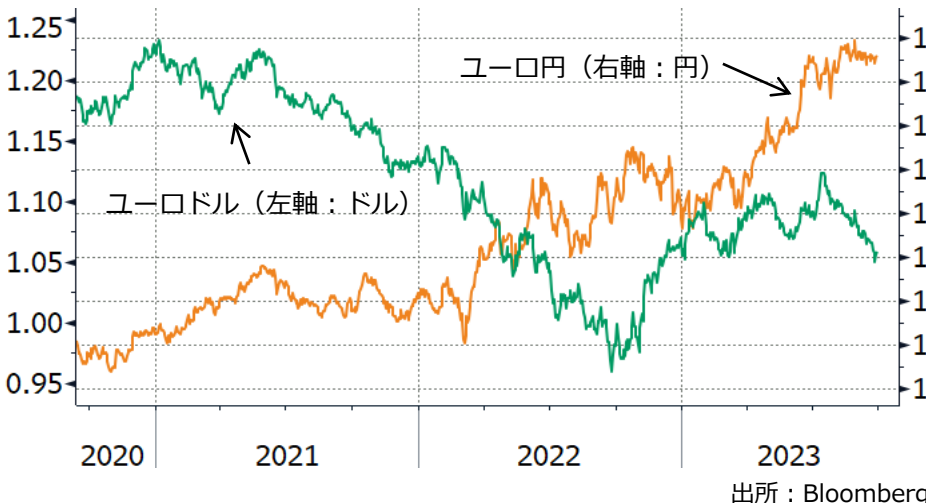
FRBの追加利上げの有無を巡って一喜一憂

9月のドル円相場は前月に続いて右肩上がりの上昇が続き、約1年ぶりの150円台に迫る場面もあった。日米の金融政策較差に加え、原油価格が上昇したことも円安要因となった。

FOMCでは市場の想定通り利上げは見送られたものの、同時に公表された政策金利見通し(ドットチャート)にて、2024年に想定されている利下げ幅が縮小したことにより、高い政策金利がより長く維持される(Higher for longer)ことが意識され、米国長期金利が一段と上昇した。日銀については植田総裁の一部新聞での発言からマイナス金利解除を含めた早期の政策変更観測が高まっており、今回の政策決定会合にてフォワードガイダンス等の変更を予想する声もあったが、結果は現状維持となった。それに加え、植田総裁の記者会見では上記の報道の火消しとみられる発言があり、ハト派姿勢の継続を印象づける内容であった。

10月はFOMCがなく、ドル円は米利上げの有無を巡って一喜一憂しながら、底堅い推移を見込む。ただし、植田総裁の記者会見ではインフレ率の下がり方が想定よりもゆっくりであるとの指摘もあり、10月の日銀会合では物価見通しの上方修正の可能性がある。引き続き日銀が正常化へ向かっていることは変わらない。政府による為替介入の警戒感が高まっていることも上値を押さえるだろう。

ユーロ



ユーロドル



ユーロドルは下落

0.95 – 1.15ドル

ユーロ円



ユーロ円は下落

145.00 – 165.00円

9月ECBで利上げ打ち止めの公算が高く、ユーロの上値は重い

9月のEURは原油高や底堅い米国景気を背景にUSD高が進行したこともあり、軟調に推移した。ECB理事会で利上げが決定されたが、今会合での利上げを最後に利上げサイクル終了との見方が台頭し、その後のEURは下落した。

10月のEURも上値の重い展開を予想する。原油高の高止まりやFRBが政策金利を「高く長く」維持するとの見方から、USD高地合いが継続しやすく、EURの上値を抑えよう。ECBも現行の政策金利の維持を示唆しているが、景況感や金融の引き締めから見て米国対比で先行きの景気減速懸念が強い。一方、悪化基調であった製造業の景況感や中国景気にはやや底入れの兆しも見られており、この流れが継続するかは注目される。対JPYでは下落を予想。欧州が利上げから政策金利の長期維持へと移行する一方、日銀は引き続き先行きの政策変更への思惑が燦ることからEUR安JPY高を見込む。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

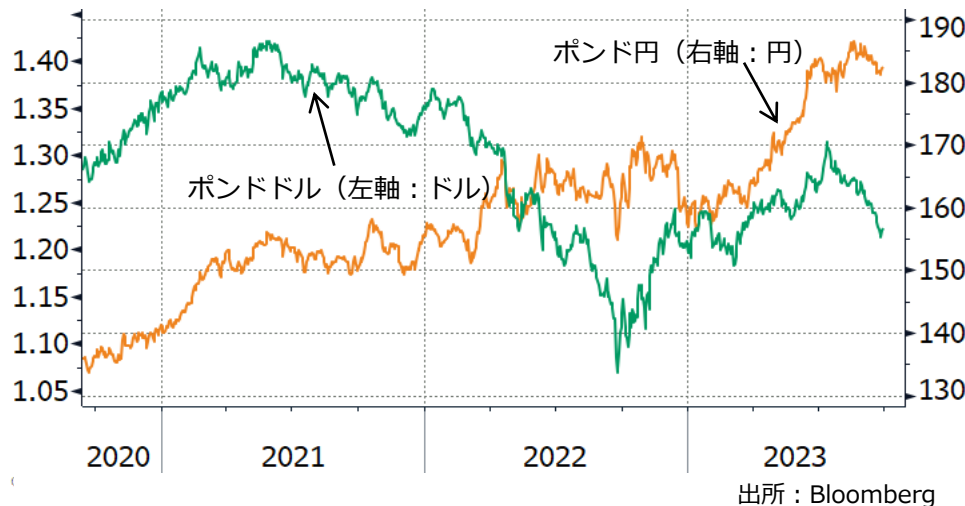
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

© 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2023年10月号)

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポ ン ド



ポンドドル

ポンドドルは下落

1.10- 1.30ドル

ポンド円

ポンド円は下落

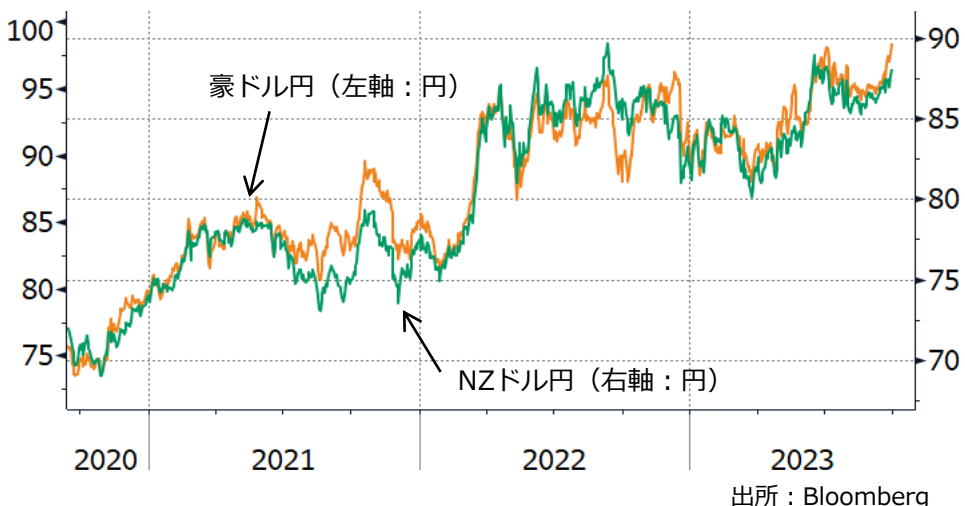
170.00 - 190.00円

利上げ継続も、景気減速懸念から上値は重い

9月のGBP相場は対USDで下落した。同国のインフレ指標の伸びが予想以上に鈍化し、イングランド銀行が政策金利を据え置いた一方、米国では米金利が原油高の影響もあり上昇、FOMCの結果がタカ派的となり、ドル高が進行したことも要因。対JPYでも下落となった。

10月のGBPは上値の重い展開を予想する。エネルギー価格が高止まりする中、米国景気の底堅さも意識され、USD高地合いは続きやすい。イングランド銀行もFRB同様に政策金利を「高く長く」維持することが見込まれているものの、英国景気は米国対比で弱く、累積的な利上げの効果の波及が先行きの景気を押し下げる懸念からGBPの上値は重いと見る。一方で、賃金上昇圧力は引き続き高いことや、物価の伸びも鈍化したとは言え引き続き高水準であったことや、政策金利据え置きが僅差で決定されたこともあり、先行きの利上げの可能性は燦々だろう。対JPYでは英政策金利が据え置かれる一方で、日銀は先行きの政策修正期待が燦々ことから、ポンド円は上値の重い展開を予想する。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



豪ドル円

豪ドル円は上昇

94.50 - 98.00円

NZドル円

NZドル円は上昇

88.00 - 91.00円

オセアニアの良好なファンダメンタルズと日銀政策の綱引きに

9月のオセアニア通貨は対円で上昇となった。豪中銀の利上げ見送りや世界株市場のリスクセンチメント悪化で豪ドルとNZドルは対ドルで上値が重く推移した。一方、豪州の良好な雇用市場や消費動向がサポートとなった。鉄鉱石の底堅い動きや中国景気の底入れの兆しもポジティブ材料。日銀が金融緩和策の継続を表明したため、金融政策の違いから豪ドルとNZドルは対円で堅調に推移した。

10月の豪ドル円とNZドル円は上昇する可能性が高いとみる。10月の豪中銀とNZ中銀会合では政策金利据え置きになる可能性が高い。一方、インフレをめぐる不透明感が強い中、引き続きタカ派姿勢を示すだろう。良好な雇用市場が引き続き豪ドルのサポート材料となる。連続の景気支援策で中国景気もさらに改善する見込みでオセアニア通貨の支えとなる。月末は日銀の物価見通しが修正される可能性があり、円買いが進行しやすい。従って豪ドル円とNZドル円はいったん上昇し、その後、上げ幅を縮小すると予想。

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

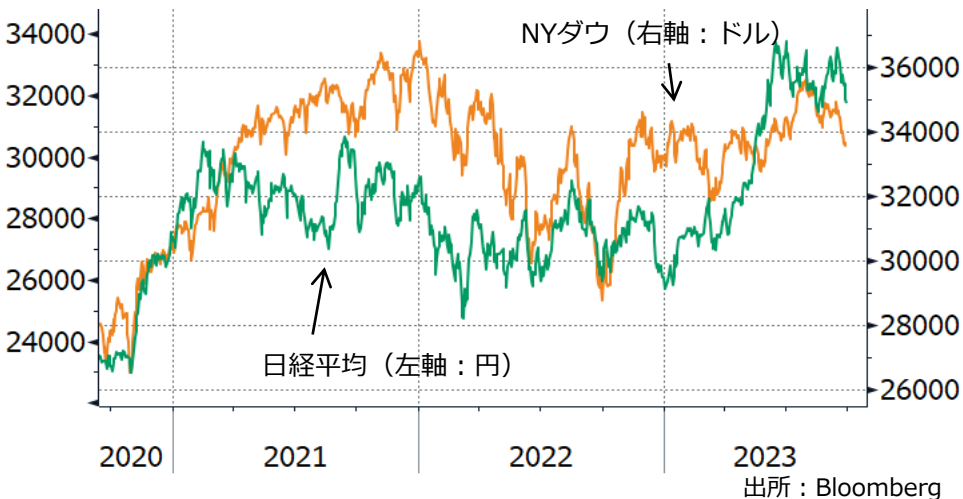
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2023年10月号)

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均

⇒ 日経平均は横ばい

31,000 - 33,500円

金融政策の方向性の違いから底堅い推移が見込まれる

9月の日経平均は米国株が下落する中でも底堅い推移となり、10月も同様の展開を見込む。警戒されていた日銀の早期の政策転換への思惑が若干後退した一方、欧米では政策金利を「高く長く」維持するとの懸念が高まっており、金融政策の方向性の違いからドル円も高止まりしやすい。岸田政権による経済対策や、解散総選挙への思惑も株価を下支えしよう。一方、先行きの日銀の政策変更への思惑は熾ることや、米景気減速のリスクもあり、上値も重いだろう。

NYダウ

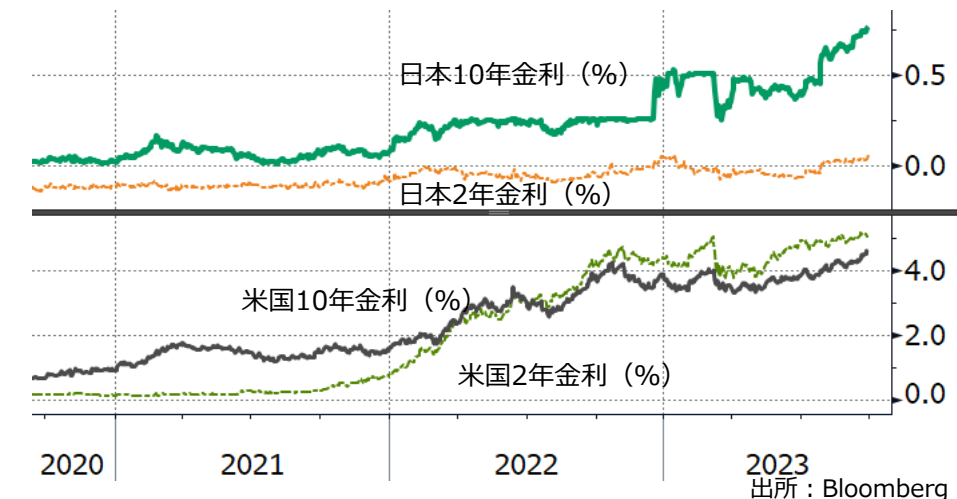
⇓ ダウは下落

32,000 - 35,500ドル

長期金利高止まりに加え、政府閉鎖やスト、学生ローン返済再開等課題山積

9月のダウ平均は下落。原油上昇に加え、FOMCの結果がタカ派的だったことで米長期金利が一時16年ぶりの水準まで上昇したことが嫌気された。また来年度のつなぎ予算を巡る政府閉鎖リスクや、全米自動車組合のストライキも相場の重石となった。10月のダウ平均は引き続き上値の重い展開を予想。1日から学生ローンの返済が再開されることで個人消費への影響も懸念される。一方、景気に鈍化傾向が見られれば逆に金利に低下圧力がかかり、株価も底堅さを取り戻そう。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年

⇓ 金利は上昇

0.60 - 0.90%

月末の日銀会合にむけて警戒感が高まる

9月の国内長期金利は上昇した。植田日銀総裁による一部新聞社でのインタビューにてタカ派的な発言が伝わると、市場では急速に日銀の早期政策変更観測が高まったが、その後の日銀会合は現状維持で、総裁もハト派スタンスであったことから、前のめりで年内のマイナス金利解除を織り込む動きは巻き戻された。ただし、日銀が今後正常化に向かう方向性自体には変わりはなく、月末の日銀会合にむけては徐々に警戒感が高まっていくだろう。

米国債10年

⇓ 金利は低下

3.80 - 4.80%

10/31-11/1のFOMCでの利上げ有無を見極め

9月の米長期金利は一時4.6%を上回る、大幅な金利上昇となった。同月に行われたFOMCでは想定通り利上げが見送られたが、同時に公表されたドットチャート（政策金利見通し）にて、2024年以降の利下げ幅が縮小されたことから、長いゾーンを中心に金利上昇となった。10月以降は学生ローンの返済再開やストライキ、政府閉鎖懸念等、景気下押し要因となり得る事象が山積するなか、インフレ動向に加え、米経済の堅調さが維持されるかが今後の焦点となる。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2023年10月号)
& アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨（アジア）

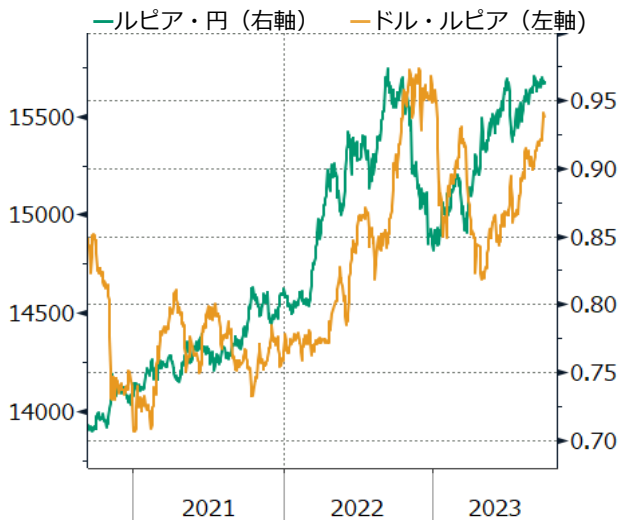
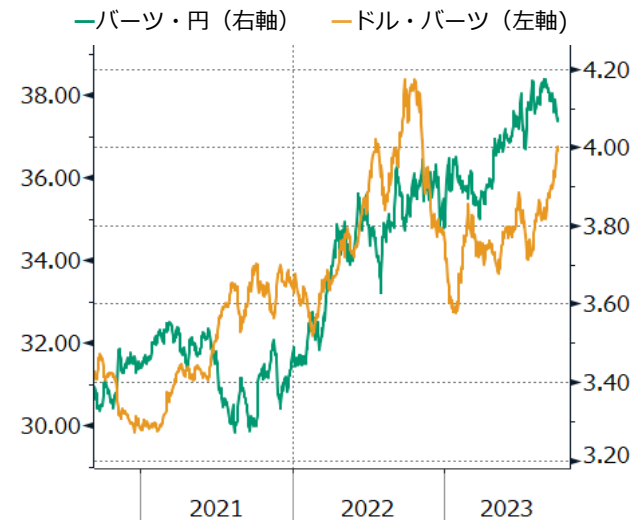
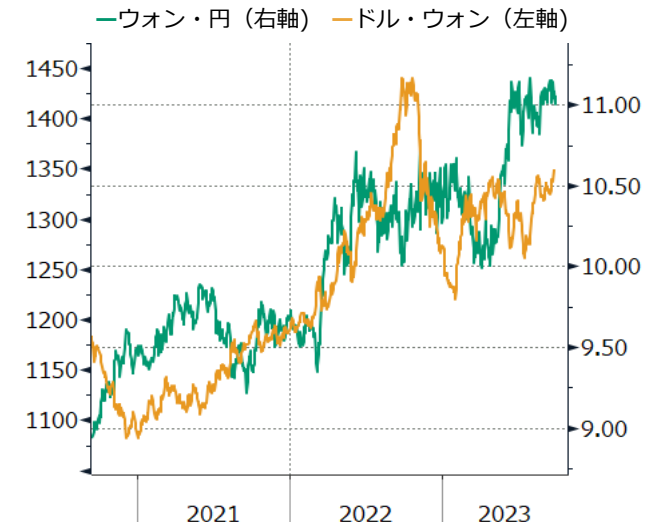
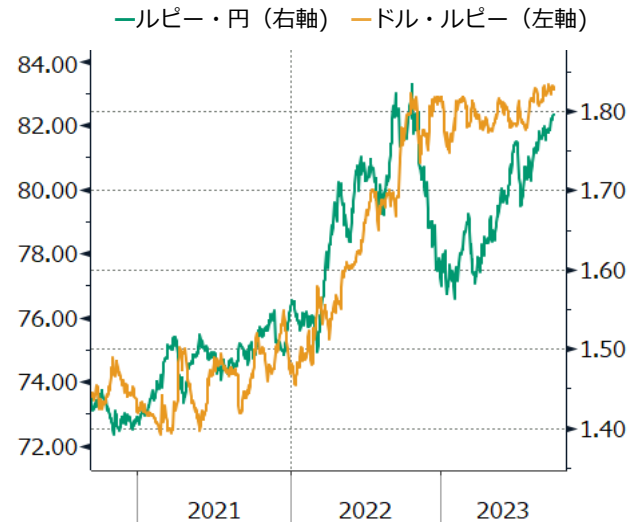
		9/28	9月の相場推移		10月の予想		解説
中国	人民元/円	20.44	➡	19.92～20.49	➡	20.20～20.60	FRBに対する利下げ期待が剥落する中、ドル買いが進行し、ドル人民元は上昇となった。一方、中国景気回復の兆しやPBOCのけん制で上昇幅は限られた。内需支援、不動産セクターの規制緩和などの景気支援策の効果が徐々に表れて、PBOCの強い元安けん制と相まって人民元のサポート材料となるだろう。一方、金利差からドルも買われやすい状況でドル人民元はもみ合い展開となりやすい。
	ドル/人民元	7.295	➡	7.24～7.30	➡	7.15～7.35	
タイ	バーツ/円	4.084	➡	4.06～4.17	➡	4.03～4.13	新政権の経済対策による財政赤字拡大懸念や外国人観光客の伸び悩みでバーツは8月に対ドルで下落した。タイ中銀が9月会合で予想外に利上げを実施したが、ターミナルレート到達を示唆したため、金融政策上やや対ドルで不利になる。一方、新政権の経済対策や外国人観光客増加促進策への期待がサポート材料となる。10月のタイバーツは上下しやすいだろう。
	ドル/バーツ	36.76	➡	34.93～36.82	➡	37.5～35.5	
インドネシア	100ルピア/円	0.962	➡	0.948～0.968	➡	0.95～0.98	9月にインドネシア製造業PMIの改善や貿易黒字の拡大が見られたものの、ドル一強の中、ドルインドネシアは上昇した。インドネシア中銀は9月に政策金利の据え置きを継続した。FRBの政策方向に不透明感がある中、ルピアの安定性維持の観点から10月も据え置きになるだろう。グローバル製造業の改善からコモディティ価格が底堅く推移する可能性が高く、ルピアの下支えとなりやすい。
	ドル/ルピア	15,520	➡	15,229～15,543	➡	15,350～15,650	
インド	ルピー/円	1.794	➡	1.75～1.80	➡	1.76～1.81	良好な景況感が続いた一方、エネルギー価格の上昇による貿易赤字拡大が重しとなり、ルピーは9月に対ドルで下落した。直近のCPIの下振れを受け、インド中銀は10月に政策金利を据え置きにする可能性が高い。原油価格高騰による更なる貿易赤字拡大懸念やカナダなど西側との関係悪化懸念はルピーのネガティブ材料。10月のドルルピーは上昇しやすいとみる。
	ドル/ルピー	83.19	➡	82.58～83.27	➡	82.50～83.50	
韓国	100ウォン/円	11.000	➡	10.96～11.18	➡	10.80～11.30	米国との金利差拡大や原油価格上昇による貿易赤字拡大懸念から、9月のウォンは対ドルで下落した。10月は韓国中銀が景気の観点から政策金利を据え置きにする可能性が高いだろう。一方、インフレ上振れリスクを強調するだろう。原油価格の上昇が重しとなる一方、グローバル製造業の回復による輸出の改善が支えとなりやすいとみる。
	ドル/ウォン	1,349	➡	1,316～1,355	➡	1,320～1,370	

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンズリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2023年10月号)

◆ 新興国通貨チャート



◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2023年10月号)

◆ 年間為替見通し

		2023年	2024年				ポイント
		10～12月	1～3月	4～6月	7～9月		
ドル円	レンジ	135～155	125～145	115～135	115～135	FRBの利上げ停止と日銀の政策修正により、徐々に上値が重くなる。	
	期末値	140	130	125	125		
ユーロドル	レンジ	0.90～1.15	0.90～1.15	0.90～1.15	0.90～1.15	ECBの利上げサイクルは終了した可能性が高く、今後は現状の政策金利をどこまで維持するかが注目される。ここまでの利上げの累積的な効果が波及しつつあり、米国対比で景気減速懸念が強く、EURの上値は重い。	
	期末値	1.00	1.05	1.08	1.08		
ユーロ円	レンジ	130～155	125～150	120～145	120～145		
	期末値	140	137	135	135		
ポンドドル	レンジ	1.00～1.40	1.00～1.30	1.00～1.30	1.00～1.30	労働需給のひっ迫や、賃上げ等からインフレは高止まりしやすく、ファンダメンタルズ面での不安要素は残る。一方、FRBやECBが利上げサイクルが終了した可能性がある中で、先行きの利上げへの思惑は燦りやすく、GBPは下支えされやすい。	
	期末値	1.20	1.20	1.15	1.15		
ポンド円	レンジ	140～185	130～170	120～160	120～160		
	期末値	168	156	144	144		
ドル人民元	レンジ	7.00～7.40	6.80～7.20	6.70～7.10	6.70～7.10	中国当局の景気支援方針で中国経済が徐々に回復していく。ただし、米中金利差は大きな縮小が見込みにくく、ドル人民元はしばらくもみ合う。来年からグローバル製造業回復で貿易黒字が拡大し、人民元を支える。	
	期末値	7.20	6.90	6.80	6.80		
人民元円	レンジ	18.24～22.14	17.36～21.32	16.20～20.15	20.15～16.20		
	期末値	19.44	18.84	18.38	18.38		
豪ドル円	レンジ	80～105	75～100	70～90	70～90	足元底堅く推移するも年末に向けて日銀政策修正の思惑で上値が重くなりやすい。	
	期末値	92	87	86	86		
タイバーツ円	レンジ	3.80～4.80	3.70～4.70	3.50～4.50	4.50～3.50	観光業の回復、景気支援策から当面の間底堅く推移。年末に日銀政策修正織で対円で下落を予想。	
	期末値	4.06	4.00	4.03	4.03		

◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

7

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2023年10月号)

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
10/2(月)	7-9月期日銀短観	9月ISM製造業景況指数	
10/3(火)			(豪) 準備銀行理事会
10/4(水)		8月製造業受注 9月ADP雇用統計 9月ISM非製造業景況指数	
10/5(木)		8月貿易収支	
10/6(金)	8月家計調査 8月毎月勤労統計 (速報)	9月雇用統計	
10/9(月)	(スポーツの日)	(コロンブス記念日)	(他) IMF・世界銀行総会 (～15日)
10/10(火)	9月景気ウォッチャー調査		
10/11(水)		9月PPI FOMC議事要旨	
10/12(木)	8月機械受注 9月企業物価指数	9月CPI	(他) G20財務大臣・中央銀行 総裁会議 (～13日) (中) 9月貿易統計
10/13(金)			(中) 9月CPI

	日本	米国	その他
10/16(月)		10月NY連銀製造業景況指数	
10/17(火)		9月小売売上高	(独) 10月ZEW景況指数
10/18(水)		9月住宅着工・許可件数	(中) 7-9月期GDP (中) 9月生産・小売・投資
10/19(木)	9月貿易統計	10月フィラデルフィア連銀製造業景況指数 9月中古住宅販売	
10/20(金)	9月消費者物価指数		
10/23(月)			
10/24(火)			(欧) 10月PMI (速報値)
10/25(水)		9月新築住宅販売	(独) 10月IFO企業景況感指数
10/26(木)		7-9月期GDP (速報値)	(欧) ECB定例理事会
10/27(金)		9月個人所得・消費支出	
10/30(月)			
10/31(火)	9月鉱工業生産 9月住宅着工件数 9月労働力調査 植田日銀総裁定例会見 日銀金融政策決定会合 (結果発表)	10月消費者信頼感指数	(中) 10月PMI



© 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2023年10月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【8/25～31】

◎ 株式市場活性化へ、印紙税徴収を半減

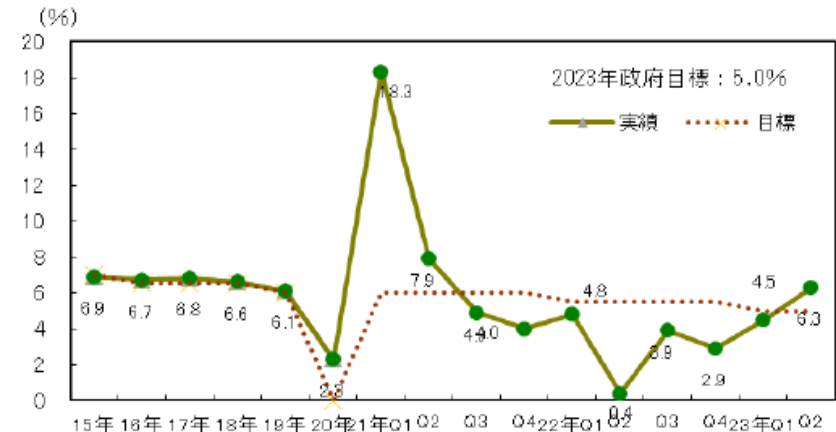
中国財政省と国家税務総局は28日から、株式取引にかかる証券取引印紙税の徴収を半減した。税率を従来の0.1%から0.05%へと引き下げ、資本市場の活性化を狙う。証券時報によると、引き下げは世界的な金融危機が広がった2008年以来15年ぶり。財政省によると、今年1～7月の証券取引印紙税の税収は前年同期比30.7%減の1,280億元（約2兆5,700億円）だった。税収全体に占める割合は1%程度。27日には中国证券监督管理委员会（証監会）も株式相場の安定に向けた施策を発表している。

【9/1～7】

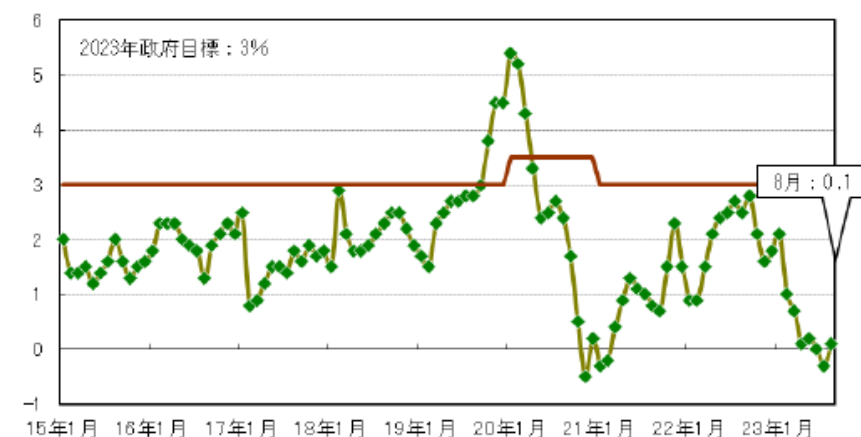
◎ 外貨預金準備率、4%に下げ

中国人民銀行（中央銀行）は1日、金融機関から強制的に徴収する外貨の預金準備率を15日に引き下げると発表した。比率はこれまでの6%から4%に下げる。外貨の流動性を高めることで最近の人民元安圧力を緩める狙い。外貨の預金準備率を引き下げるのは昨年9月以来。預金準備率の引き下げは元高を誘致する手段の一つ。為替市場への外貨供給量を増やすことで、外貨安・元高を促すことができる。上海外国為替市場で、人民元の対米ドル相場は1ドル=7.3元前後で推移し、約10カ月ぶりの安値水準に下落している。

中国におけるGDP増加率の推移



月別CPIの推移(消費者物価指数)



© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2023年10月号)
& アジア・新興国FXフラッシュ

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【9/8～14】

◎ 8月PPI3.0%下落、マイナス縮小継続

中国国家统计局が9日発表した2023年8月の工業品卸売物価指数（PPI）は前年同月比で3.0%下落した。マイナスは11カ月連続だが、マイナス幅は前月から1.4ポイント縮小した。マイナス幅縮小は2カ月連続。非鉄金属や鉄金属などの一部業種の需要が改善したほか、国際原油価格が上昇した影響も受けた。前月比では9カ月ぶりに上がった。生産財、生活財価格は前年同月比でそれぞれ3.7%、0.2%下落した。1～8月平均のPPIは前年同期から3.2%下落。工業品仕入れ物価指数は3.6%下落した。

◎ 銀行の消費者ローンが増加、半年で3割

中国の上場銀行の多くが今年に入り、耐久消費財の購入資金や教育資金を捻出したい人を対象とする「消費貸款」（消費者ローン）事業を強化している。各行の6月中間期決算を基にすると、消費貸款の6月末時点の残高は年初から約3割増えた。住宅ローン事業が低迷していることで、個人向け事業の資金を消費貸款に振り向けている格好だ。中国では昨年末に新型コロナウイルス対策が緩和されたことで、今年の初頭に消費が拡大。耐久消費財の購入に働く消費者の増加が消費貸款の貸出額を押し上げた。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2022/10	2022/11	2022/12	2023/1	2023/2	2023/3	2023/4	2023/5	2023/6	2023/7	2023/8
実質GDP成長率	%	-	-	2.9	-	-	4.5	-	-	6.3	-	-
消費者物価上昇率	%	2.1	1.6	1.8	2.1	1	0.7	0.1	0.2	0	-0.3	0
都市部調査失業率	%	5.5	5.7	5.5	5.5	5.6	5.3	5.2	5.2	5.2	5.3	5.2
輸出額	10億ドル	294.5	291.9	299.2	286.0	209.2	304.4	290.4	282.5	284.4	281.5	284.8
輸入額	10億ドル	212.2	225.4	228.6	193.4	197.4	226.0	203.9	216.9	214.6	201.2	216.6
経常収支	100万ドル	-	-	401,855	-	-	81,530	-	-	146,830	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,052.4	3,117.5	3,127.7	3,184.5	3,133.2	3,183.9	3,204.8	3,176.5	3,193.0	3,204.3	3,160.1
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.21	7.17	6.98	6.79	6.84	6.89	6.89	7.00	7.16	7.19	7.25

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2023年10月号)

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○発展し続ける二線都市

今週、久しぶりに寧波に出張しました。コロナの影響で、4年ぶりです。今回訪問する場所は寧波旧市街ではなくて、寧波郊外のある区です。

前職の仕事の関係で、土地の調査をしたことがあり、以前はまだ未開発の土地が多かったです。

今回行ったら、街は綺麗に整備されて、新しくできたオフィスビルや住宅団地が多かったです。

また日系の百貨店が進出していて、出店するブランドは高級ブランドに加えて、初めて寧波で出店するブランドもありました。

デパートの中は綺麗なデザインで、設計なども上質感があり、とても素晴らしいです。これから販売が繁盛すればいいですね。

寧波は浙江省の二線都市（準大都市）で、民営企業が発展しています。

コロナ後の現在は街が活気に満ちて、いいなと思います。これから中国の二線都市がどんどん発展すればよいと思います。



○救助犬4匹を里親へ

週末、ある記事を見ました。四川省成都消防救援支隊で働いた4匹の捜索救助犬が8月30日に引退しました。

消防救援支隊の方は現役引退・里親引渡式を行い、当日ボランティア45名が参加しました。

この4匹の犬はそれぞれ、「戦狼」、「順城」、「AK」、「犀莉」と名付けられ、4人チームは「ワンワン隊」（ある人気なアニメ番組の名前）と言われています。

救助犬トレーナーは、「戦友」である犬たちと共に参加したすべての救援活動や競技を振り返り、名残惜しそうに4匹のリードを里親となる新たな飼い主に引き渡しました。

今回、4匹の里親は応募したネットユーザー100人の中から選んだといいます。

記事の写真をを見ると、救助犬はトレーナーにしがみついて離れようとしません。この様子を見ると、犬も人間と同じように感情があり、特に消防捜索救助犬はトレーナーと一緒にいろんな救援活動に参加しているので、深い感情を持っていると思いました。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2023年10月号)
& アジア・新興国FXフラッシュ

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆国内経済、回復傾向を保っている

タイ中央銀行の経済報告によれば、2023年7月のタイ経済は引き続き回復傾向を保っている。国内支出が民間消費と民間投資の双方で拡大した。民間消費指数は前年同月比7.3%増。サービスと非耐久財の消費が主に拡大した。民間投資指数は同1.4%と前月のマイナスからプラスに転じた。建設投資と機械・設備投資ともに拡大した。外国人観光客数は引き続き増加した。鉱工業生産指数は同4.4%低下したが、多くの業種が季節調整済み前月比で向上していた。食品・飲料、自動車、タイヤの生産は増加した。一方、ハードディスク駆動装置（HDD）、電化製品の生産は減少した。

◆2023年第2四半期のGDP、1.8%増加

タイ国家経済社会開発委員会（NESDC）が発表した2023年第2四半期（4～6月）の国内総生産（GDP）成長率は前年同期に対し1.8%増加した。前四半期の2.6%増から鈍化した。民間投資、輸出が減速する中、民間消費や観光業が景気をけん引した。産業別で、農水畜

産業分野は0.5%増、非農業分野は1.9%増だった。非農業のうち、工業が3.3%のマイナス成長の一方、サービス業は4.1%増だった。上半期（1～6月）のGDP成長率は2.2%増だった。今年通年のGDP成長率予測を前年比2.7～3.7%増から2.5～3.0%増に下方修正した。

◆2023年8月CPI、前年同月比0.88%上昇

タイ商務省が発表した8月の一般消費者物価指数（CPI）は、前月比0.55%上昇し、前年同月比で0.88%上昇となった。ガソリンの値上がり等で前月の前年同月比0.38%の上昇から加速した。分野別では、食品・飲料が前年同月比0.74%、非食品が同0.98%とそれぞれ上昇した。2023年1～8月CPI平均値は前年同期比2.01%上昇となった。

◆タイ中央銀行、政策金利を引き上げ

タイ中央銀行は2日、7会合連続で0.25%幅の政策金利（翌日物レポ金利）を引き上げ、2.25%にすることを決定した。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2022/10	2022/11	2022/12	2023/1	2023/2	2023/3	2023/4	2023/5	2023/6	2023/7	2023/8
実質GDP成長率	%	-	-	1.4	-	-	2.6	-	-	1.8	-	-
消費者物価上昇率	%	6.0	5.6	5.9	5.0	3.8	2.8	2.7	0.5	0.2	0.4	0.9
失業率	%	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	-
輸出額	100万ドル	21,827	22,388	21,778	20,250	22,376	27,654	21,723	24,341	24,826	22,143	-
輸入額	100万ドル	22,147	23,504	22,504	24,899	23,490	24,936	23,195	26,190	24,768	24,121	-
経常収支	100万ドル	704	-293	1,157	-1,978	1,034	4,413	-581	-2,766	1,449	-445	-
外貨準備高	10億ドル	201.9	210.7	216.6	225.5	217.4	224.5	223.5	220.8	218.2	220.7	216.9
主要政策金利	%	1.00	1.25	1.25	1.50	1.50	1.75	1.75	2.00	2.00	2.00	2.25
対ドル為替レート	バーツ	37.9	36.4	34.8	33.2	34.1	34.5	34.3	34.3	34.9	34.6	35.0

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項をよくお読み下さい

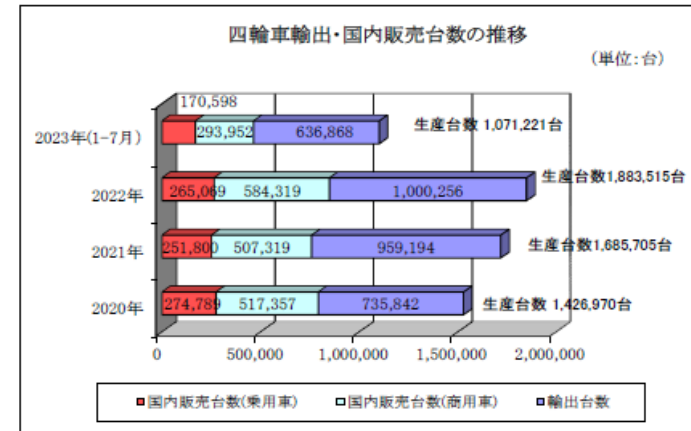
りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2023年10月号)

タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

出所:タイ工業連盟 (FTI)

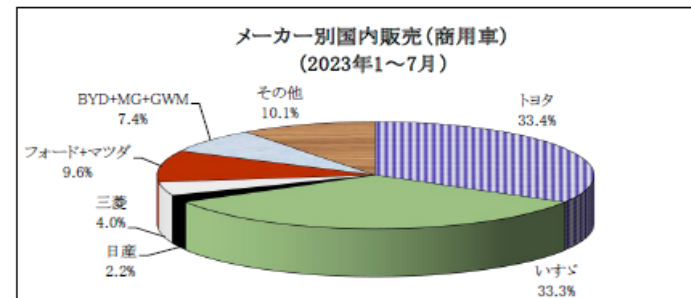
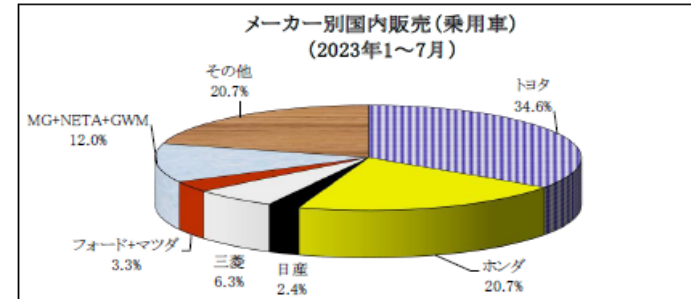
		2020年	2021年	2022年	2023年 (1-7月)	前年同期比 (%)	7月
【台数】 (台)							
四輪	生産台数						
	乗用車	542,437	599,844	600,839	371,629	105.2	50,568
	商用車	884,533	1,085,861	1,282,676	699,592	98.4	99,141
	合計	1,426,970	1,685,705	1,883,515	1,071,221	100.7	149,709
	国内販売台数						
	乗用車	274,789	251,800	265,069	170,598	110.0	22,511
二輪	商用車	517,357	507,319	584,319	293,952	87.4	35,908
	合計	792,146	759,119	849,388	464,550	94.5	58,419
	輸出台数	735,842	959,194	1,000,256	636,868	119.5	108,052
	生産台数	1,615,319	1,780,654	2,015,940	1,297,727	119.3	170,123
	国内販売台数	1,516,096	1,606,481	1,792,016	1,144,760	110.0	150,779
	輸出台数	727,152	965,967	1,034,840	491,872	84.7	64,238
【完成車輸出金額】 (百万バート)							
四輪		410,912	561,147	619,348	396,769	124.5	67,588
二輪		85,802	75,985	73,729	41,552	108.3	5,690



出所: トヨタ自動車

【メーカー別国内販売台数】

		2020年	シェア (%)	2021年	シェア (%)	2022年	シェア (%)	2023年 (1-7月)	前年同期比 (%)	シェア (%)	7月
トヨタ	乗用車	68,152	24.8	62,403	24.8	82,738	31.2	59,089	134.3	34.6	8,048
	商用車	176,164	34.1	177,320	35.0	206,071	35.3	98,191	83.0	33.4	12,373
	合計	244,316	30.8	239,723	31.6	288,809	34.0	157,280	96.9	33.9	20,421
いすゞ	乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
	商用車	181,194	35.0	184,160	36.3	212,491	36.4	98,016	77.7	33.3	11,735
	合計	181,194	22.9	184,160	24.3	212,491	25.0	98,016	77.7	21.1	11,735
ホンダ	乗用車	77,419	28.2	76,886	30.5	61,665	23.3	35,347	103.3	20.7	4,922
	商用車	15,622	3.0	11,806	2.3	21,177	3.6	18,338	138.8	6.2	2,629
	合計	93,041	11.7	88,692	11.7	82,842	9.8	53,685	113.2	11.6	7,551
日産	乗用車	27,120	9.9	19,790	7.9	10,933	4.1	4,085	51.6	2.4	525
	商用車	17,438	3.4	9,906	2.0	11,588	2.0	6,352	102.7	2.2	679
	合計	44,558	5.6	29,696	3.9	22,521	2.7	10,437	74.0	2.2	1,204
三菱	乗用車	22,363	8.1	18,456	7.3	21,157	8.0	10,664	82.2	6.3	1,086
	商用車	35,046	6.8	28,732	5.7	29,228	5.0	11,676	100-36.7	4.0	1,419
	合計	57,409	7.2	47,188	6.2	50,385	5.9	22,340	71.1	4.8	2,505
その他	乗用車	79,735	29.0	74,265	29.5	88,576	33.4	61,413	109.7	36.0	7,930
	商用車	91,893	17.7	95,395	18.7	103,764	17.7	61,379	113.9	20.9	7,073
	合計	171,628	21.8	169,660	22.3	192,340	22.6	122,792	111.7	26.4	15,003
合計	乗用車	274,789	100.0	251,800	100.0	265,069	100.0	170,598	110.0	100.0	22,511
	商用車	517,357	100.0	507,319	100.0	584,319	100.0	293,952	87.4	100.0	35,908
	合計	792,146	100.0	759,119	100.0	849,388	100.0	464,550	94.5	100.0	58,419



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。